



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2014年8月1日

8月号・第151号

奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀 憲



薬師寺 国宝東塔九輪水煙



Contents

会長の抱負	①
ならやま景観整備コンセプト	①
新風・仲間入りしました	②
多土 済々	④
Monthly Repo.ならやま	⑤
里山の今	⑥
山の日・川の日	⑧
春の感謝祭	⑨
7月・月例研修会	⑩
歴文特別企画研修	⑪
自然教室チームだより①	⑫
自然教室チームだより②	⑬
やさしい病害虫講座④	⑭
青垣春秋	⑮
Galleryならやま	⑯
俳句百景	⑰
癒しの散歩道&ならやま茶論	⑱
ならやまプロジェクト	⑲
行事案内&予告	⑳
奈良学クイズ	㉑
幹事会報告・ペン画に寄せて	㉒
編集後記	㉒

会報誌はカラーで
ホームページに掲載しています。

<http://www.naranature.com>

明るく！元気に！楽しく！無理をせず！

会長 藤田 秀憲

5月の総会で、新幹事6名を迎えて新体制がスタートしました。

2001年9月に当会が発足して13年、2007年に「ならやまプロジェクト」がスタートして早7年になりました。

この間、先輩諸兄や会員の皆さま方のご尽力、奈良県はじめ各方面のご支援、ご協力のお陰をもちまして、今では会員150名を超え、奈良県でも有数の環境ボランティア団体として活動を続けています。

会員の皆さまには「ならやまプロジェクト」をはじめ「月例研修会」「自然教室」の活動にご参加いただいておりますが、なかなかお会いしてお話を伺う機会がないのが残念であります。

幹事、顧問の皆さまを通して、ご意見をお聞かせいただいておりますが、毎月発行の会報誌を活用して、活動の詳細をお伝えするとともに、会員皆さまのご意見をお聞かせいただくことも会の発展のために大切であると思います。

「明るく！元気に！楽しく！無理をせず！」が当会の活動のモットーですが、私たちは年々年を取り体力も衰えてまいります。

私たちがいつまでも、幾つになっても年令や体力に応じて、主体的に活動出来る場所づくりを、そして「奈良・人と自然の会」が私たちにとって、終生、心身ともに楽しい活動フィールドであり続けられるようになればと願っています。

そのためには、特定の人だけに負担がかかる活動ではなく、ひとり一人が当事者意識をもって、力を合わせていくことが何よりも大切だと考えています。

私たちの活動の夢を膨らませ、発展継続させ、次の世代に引き継いでいくために、今何をしなければならぬのか。皆さま方のご意見を伺いながら対応してまいりたいと考えています。皆さま方のご協力とご支援をお願い申し上げます。

祇園祭、天神祭が終わりましたが、まだまだ厳しい暑さが続きます。くれぐれもご自愛いただきますようお願い申し上げます。

「ならやまプロジェクト」について

本年度より「ならやま景観整備事業」は「ならやまプロジェクト」に名称を変更しました。

ならやまでの活動が多岐にわたるため、景観整備にとらわれることなくいろいろなことに挑戦できるようにするためです。

市街地にある里山として、また身近にある自然にふれあえる場として会員はもとより、多くの方々に親しまれる場となるよう活動しています。

さらに「月例研修会」「自然教室」の活動を通じて、外部研修や交流の機会を得て幅広いならやま活動に発展させています。

このプロジェクトの活動推進母体は、「里山グループ」「エコファームグループ」「景観グループ」の3つです。ポイントは参加者自身が当日の活動内容に応じて好きなグループ活動を選べることにあります。またならやまでのイベントのように会員全体で取り組む活動も増え、一般の方々の参加もますます多くなってきています。

活動フィールドは、県より借用の「ならやま里山林」「ならやま自然の森」「ならやま彩りの森」「佐保自然の森」「第5地区」の5つで面積は約16haです。隣接の未借用の県有地約11haがあり、まだまだフィールドの余裕があります。

「ならやまプロジェクト」はみなさんの考えや意見を取り入れながら推進していくために下記の担当の方々頑張っています。

「みんなの夢をかなえる里山」の活動とするため、推進役のみなさんに気軽に話しかけ、さらなる活動の充実を目指しましょう。

分 担	担 当
ならやまプロジェクト総括	木村、森、八木
里山グループ	杉山、平田、大澤
エコファームグループ	鈴木、富井、萱野 宮崎
景観グループ ・ 景観 ・ ビオ ・ 花 ・ パトロール班	羽尻 太田 羽尻、山本 西谷、山中 小島

(事務局：塩本勝也)

副会長の大役を仰せつかって

八木 順一

初めて奈良・人と自然の会BCを訪れる際に道に迷ったこともつい昨日のように思い出されます。それから早5年を数え、今年図らずも副会長の大役を仰せつかることになりました。

しかしこの5年間、草刈りに明け、草刈りに暮れた毎日であったことは、間違いありませんが、ここに集われる方々との交流も大きな喜びであったことも事実。特に社会のいろいろな分野で活躍されてきた経験や体験に耳を傾け、自分の未熟さを実感したことに加え、この会が計画実施してきたさまざまな行事等に参加をし、心開かれる思いが持てたことも大きな成果でした。

しかし、この会は参加人数においても、事業内容等においても規模の増大が目立ち、課題も山積しているように思えます。

そこで、この会の持つ大きな理念の実現を図るために、またそのためにここに参集する方々の更なる夢と希望を満たすためにも、常にこの会が創設された際の原点を見据えながら、ささやかな努力を傾けたいと思っております。どうかご協力よろしくお願いいたします。

新風…6名の新幹事就任 ①

田矢 恵造

当会に入会し1年余りになりました、この1年間は活動内容を知るため例会やイベントに積極的に参加してまいりました。この度幹事に就任し会計を引き受けるに当たり大変身の引き締まる思いをしております。

会員の活動範囲が広く人数も多い為、助成金制度の活用で収支の膨らむなか、月次集計の方法変更等、早急に習熟し迅速かつ明朗会計を目指し、努力する所存でございます。

今年度より3年間林野庁の「森林・山村多面的機能発揮対策交付金」採択決定に伴い、活動の計画・報告書や作業前後の記録写真等、いろんな書類が必要になると思われます。会計として必要書類を早く提出出来るよう準備したいと考えますので、皆様方のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

「明るく・楽しく」

平田 範光

当会に入会して、はや5年目を迎え皆様のお顔もようやく覚えられるようになりました。

この度、幹事という大役を仰せつかりました。本会の趣旨に基づいて

① 無理をしないこと。

次の朝、床から起き上がれない程頑張らないこと。

② 安全であること。

不慣れな作業もあると思いますが、熟練者に充分教わり自分勝手な行動はしないこと。

③ 楽しいこと。

毎木曜日が待ち遠しくなるように。

の3点を心掛け、諸先輩方が今まで培ってこられた「奈良・人と自然の会」の原点を忘れないように微力ではありますが頑張りますので、皆様方のご協力とお知恵をお貸いいただきたいと思ひます。



「幹事 拝命」

宮崎 まさ美

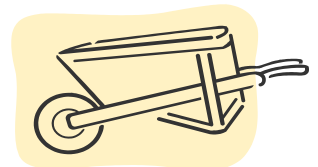
季節が一巡り。

ならやまの四季を一通り経験したところで、幹事を仰せつかりました。なにもかも初めての事、見よう見まねで田畑をウロウロして過ぎた1年。

さきごろ幹事会というものに、初めて参加。話される事柄の難しさ、他の幹事さんの会に対する熱意に ビックリ オロオロ。幹事をひきうけてしまったことを後悔。会の活動は、皆さん方のいろいろな準備と労働、奉仕によって進んでいることを改めて知りました。

女性メンバーの方たちが分担してくださっているお茶の準備やトイレ掃除など。みんなが快適に活動するための大事な仕事。まずはそれらをやらせていただきましょう。しかし、ドジな私のことどんな失敗をやらすかわかりません。みなさま、どうぞ温かい目でみてやってください。

どうぞよろしくお願い致します。



新風…6名の新幹事就任 ②

杉山 耕二

森林といえば、山深い針葉樹林を思い浮かべることでしょ。一方、里山というと将にここ「ならやま里山林」の風景。今日的な意味でつかわれる「里山」という言葉は、京都大学名誉教授の故・四手井綱英氏の考案によるとい。う。

スギ・ヒノキ等の施業地は一般的には人工林と言われているが、実は里山こそ継続的に人手を必要とする林地で、そういう意味ではこちらの方が人工林と言っても過言ではない。

過去から里山は20年程度をめどに植生を更新・資源活用してきたように、その多面的機能を発揮していくには今後も継続的に伐採・更新していく必要がある。

今回、幸いにも国の「森林・山村多面的機能発揮対策」が実施されることになり、この支援のもとに素晴らしい「ならやま里山林」を整備・継続することを目指して、これから伐採・更新作業に入っていきたい。

顎・足・怪我は自分持ちのボランティアにあっては「安全最優先」で、明るく！楽しく！無理をせず！共に作業を致しましょう。



山本 妙子

『牛(ぎ)う 後となるも 鶏頭となるなかれ！』
こんな私の勝手な シニアライフスタイルで奈良・人と自然の会に参加させてもらって、2年が過ぎました。

コ克蘭から始まって、ジャコウアゲハ 半夏生 ホウネンエビ、筍堀、田植えなどいろいろなものを教えてもらったり、体験させてもらい 毎回「フーン！ヘーン！」の連続です。 そんな自然に対して、幼稚園児にも劣る私に 幹事の役がまわってきました。

会に参加しチンプンカンプンながら、この里山への思い入れが、活発な意見となっているのだなあとおもいました。頭脳の衰えには逆らえず、お役に立てそうにありませんが、こんな老後もいいもんだと、この会を教えてくれた人、会の人みんなに感謝です。

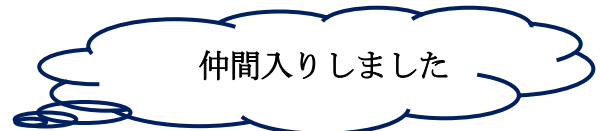
「新幹事になって」

太田 和則

よりによって、まさかの幹事就任ですねー。きっと皆さんはビックリされたかと思いますが本人が一番驚いています。入会して1年半が過ぎましたが、何時しかこのならやまの活動日が軸になって一週間が回っております。

自然に触れたい、遊びたいと思いながらも、いざとなるとなかなか出来なかったことが、ならやまの“人と・自然の会”の活動には再現出来る環境も備わっていました。また春夏秋冬それぞれの季節に応じて楽しみが満載です。毎週お弁当を持って…小学生のピクニック気分です。そして、いろいろの分野での達人の集まり。毎週逢えることを楽しみにしながら出かける今日です。

幹事への打診がありました折、“固辞に固辞を重ねました”が、ならやまの活動に少しでも役立つのであればと、最終的に引き受ける事に致しました。今は気持ちの引き締まる思いです。そして景観グループの一員として重要な任務を担当することになりましたが、“一つ一つ丁寧に”“楽しみながら”与えられた任務を頑張りたいと思っておりますので、どうぞ皆様のご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



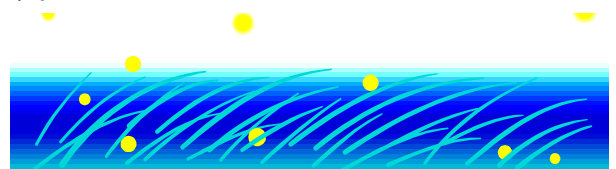
仲間入りしました

「自然を愛する本会の活動に感謝」

宝田 昇

初めて参加させて戴きましたのは、6月16日のホタルの鑑賞会の夕暮れでした。里山に添うように流れる川辺に幻想的に舞うホタルを、目で追いながら幼き日々を思い浮かべ、皆様方の里山を愛される力強い、お気持ちがひしひしと心に響き、感銘を致しました。

新人一年生ですが今後共宜しくお願い申し上げます。





いつも朗らか 豊島 すみ子さん

顧問 阿部 和生

平成26年5月 第13回総会で長年就任頂いた「会・副会長並びに幹事」を退任されました。「今回はどうしても役職を離れたい!」という強い決意の申し出であり 役員改選前の意思表示でした。 豊島さんは、会創設以来のメンバーでありまた女性副会長としてこれまでの「会」の活動を支え リードして下さいました。 勿論これからも会員として従来と同じ、いやそれ以上の活躍を確約しておられます。



ならコープの要職を務められ、かたわら自然の恩恵、働きに目覚め 森林を愛しまた次世代の子供たちを慈しむ、まことに多忙な人生を歩んでおられます。環境保全というテーマに出会い、学びと実践をする

中でのめり込み「奈良・人と自然の会」と「ならコープ」さんとの接点も探る といった多忙を楽しむがごとき日常であったのです。

お住まいが、大淀町という奈良県中部にありながら そのハンディを感じさせることなく幹事会に月例研修会にと、勤しんでこられました。参加されますと先頭グループを歩み きびきびと動かれる 興味あるものには貪欲な姿勢の方でした。一方で大きな組織の中で鍛えてこられたのでしょうか、 私達の会議で議論が沸騰すると さりげなく場を和らげ 落ち着かせるという特技(?)に、大変に助けられたものです。活動内容が「会の目的」から外れないよう目配りもして頂いたと感謝しています。

奈良市忍辱山国有林・間伐整備体験の頃、会の活動を広げようと、一般の方々を募集し

「一日山の体験会」を催した事があります。自然環境保全を広め社会貢献に資する活動しようとの試みです。コープ広報誌「あおがき」による参加者募集をしていただきました。また資金面でも「ならコープの環境助成」を紹介頂く等 初めての対外的な活動を支えて頂いたことは忘れられません。これをきっかけとして多様な募集方法を探ったり、資金確保の道筋を覚えたりと広がり、大変貴重な体験でした。ならコープで、環境分野を受け持たれ、その様々な対応の蓄積を 私達の「会」にいつしか フイードバックして頂いていたものです。

子ども達への 深い思い・愛情は 自然教室チームでの現在の活動に繋がり、遠路のものともせずに 参加されています。集団を扱う緩急を心得た その進行ぶりは お手の物です。



(自然教室チームの仲間と)

これまで関わってこられた 吉野での里山林整備や黒滝村での植林活動等は、まだまだ豊島さんの力量が必要であり、これからも継続されることでしょう。他団体での活動体験は、何れ又「奈良・人と自然の会」へのアドバイスや 情報として生かされてくること確信し、期待をしています。愛用のお車は健在。ますます その活動の手足としての伴侶でしょう。自然観察会は樹木。草本だけでなく野鳥の方にも関心をお持ちです。自由な立場でこれまでの経験を生かしての発言・提言を期待しているところです。

Monthly Rep ならやま

木村 裕

6月26日(木) うす曇り 66名参加。

春の感謝祭(じゃがいも祭)。



朝一番、昼に使う
じゃがいも掘り。

里山Gも総出で
ノコギリをクワに
持ち替えて応援。

お昼には白米、

黒米のカレーライスを皆で賞味。

里山Gは、コナラ被害木の薪割りと焼却。カシ
ナガトラップ調査、新規被害木へのトラップ設置。

エコファームGは、ゴーヤ・サンドマメの網張
り、ナスの初収穫、立派なナス!

景観Gは、第1駐車場・彩の森の除草、池の生
物調査、センニチコウの植えつけ。

7月3日(木) 雨 26名

朝7時に活動中止を流したが、8時頃から天気
が快復し、かなりの会員の参加があったので臨時
活動日として作業開始。しかし、11時頃から雨が
降ってきたので中止。

里山Gは、カシナガトラップ調査、イベントの
工作材料の準備。

エコファームGは、ナス・ピーマン等の収穫、
サトイモの除草。

景観Gは、第2、第3駐車場の除草、センニチ
コウの移植を続行、花壇の除草。

7月4日(金) 曇り 24名

3日の代替活動日。皆さんすでに予定があるよ
うで参加者は少なかった。前日に引き続き研ぎ士
が鎌等の刃物研ぎに実力発揮。

里山Gは、カシナガの被害木調査、ペットトラ
ップ調査、粘着トラップ調査、イベントの工作材
料準備。

エコファームGは、ナス・サトイモの除草シー
ト張り。

景観Gは、第2、第3駐車所の除草を継続。

アカパンサス・タカサゴユリの植え付け。

7月10日(木) 雨 15名?

前日の予報では降雨確率40%であったが、雨の
ため急遽活動を中止。雨の中をやって来られた会
員には申し訳なかった。

7月11日(金) 曇り一時晴れ 37名

代替の活動日。堆肥づくり容器内のカブトムシを
チェックしたところ、過密のせいかなほとんどの個体
で羽根が十分に伸びていなかった。残念!

飼育方法を再検討する必要あり。

里山Gは、カシナガ被害木の調査、カシナガトラ
ップの調査。

エコファームGは、ナス・ピーマンの収穫、サツ
マイモの除草。

景観Gは、第5地区・彩の森・池周辺の除草。
黄花コスモスの間引き、皇帝ダリヤの支柱づくり、
自転車道沿いの花壇の除草

7月17日(木) 晴れ 60名+1名

3週間ぶりの上天気。しかし暑さが厳しくなり、
本日からサマータイムを導入(8時~12時、9時に
朝礼)。

佐保台小5年生によるイネの生育観察。

ミツバチの巣箱から蜜の初採取。

里山Gは、イベントの工作材料、バームクーヘン



用竹の準備。カシナガトラ
ップ調査。

エコファームGは、ナ
ス・ピーマンの除草、ナス
の茎誘引、ピーマンの除
草・施肥。



景観Gは、彩の森・池
周辺の除草。

池の生物調査では久しぶ
りにミズスマシが見つかる。ア

ジサイの剪定・除草。



ならやま花だより

平岡久美



ペタキン日記 27

羽尻 嵩

7月10日、貯水池近くの湿地に、今を盛りに咲き誇るハンゲショウとオオバギボウシの見事な花、思わず立ち止まり見入ってしまった。

野の花たちにとっても、夏は過ぎしにくだるうに、春から咲き続けるおなじみのタンポポやカタバミの花が頑張っている。そんな中、珍しくピンクのネジバナを見つけた。たった1本のネジバナは珍しいと思いながら進むともう1本。子どもの頃、田の畦にたくさん咲いていた馴染みの花だが、ならやまでは初めて見た。仲間を増やしてくれるだろうか。離れたところに1本ずつ咲いている2本のネジバナがんばれ！



ネジバナ (ラン科)

(別名 モジズリ)

- ・ねじれて咲くからネジバナ
- ・右巻き、左巻き、まっすぐ。時には途中で変えることも
- ・花弁3枚 萼3枚 (ピンク)
- ・まれにシロネジバナもある

【草花】

ブタナ、ヌマトラノオ、ウラジロチチコグサ、チチコグサモドキ、ヒメジョオン、ユウゲショウ、ギシギシ、ジシバリ、ウマノアシガタ、キツネノボタン、コケオトギリ、ヤブガラシ、トウゴマ、イヌビユ、ウド、ヨウシュヤマゴボウ、ツユクサ、セリ、ガマ、ヘクソカズラ、マツヨイグサ

【木の花】

センリョウ、ナンテン、アジサイ、フジウツギ、ムラサキシキブ。マンリョウ

【花壇】

ハンゲショウ、オオバギボウシ、ノカンゾウ、ヤブカンゾウ、ヒャクニチソウ、ヒマワリ、コスモス、ノコギリソウ、オミナエシ、キキョウ、アガパンサス、トケイソウ、ナガバオモダカ

6月26日(木) ならやま池」の築山の茂みをそっと覗いてみた。抱卵していたカルガモの母親がいない！巣の中は空になっていて、砕けたカルガモの卵の殻があるだけだった。



母親の抱卵が失敗したのだと思っていたところ。後日、田圃の水の管理にいられていた鈴木さんから連絡をいただいた。カルガモの親が子鴨6羽を引き連れて、溝を歩いていたと。

来年はこの目で見たいものだ。

7月11日(金) 写真のようにプランターなどに移植したクワイが1本を残して根元付近で切り取られてしまった。切り口がギザギザ状であったことからザリガニの仕業であることが確認できた。浅瀬にしっかりと根を埋め込んだものは無事であった。



7月17日(木) 梅雨がまだ明けない。30℃を超える気温の中、汗がしたたり落ちて体力を奪う。

タナゴ池に網を入れるとヌマエビにまじってペタキンの稚魚が一杯かかる。なぜか今年は小物ばかりで、成魚はほとんど見かけていない。

ならやまのセミ・続

菊川年明



パトロール Repo

守口京子

ニイニイゼミに続きクマゼミ、アブラゼミ、ヒグラシ、ミンミンゼミが相前後して現れ、夏も後半になるとツクツクボウシ、チッチゼミが現れる。

クマゼミはならやまでは一番大きく、名前についている「クマ」は体の大きいことに由来する。鳴き声の聞きなしは大方の人が「シャーシャー」という連続音で聞いているようである。午前中に大合唱があり、午後はぱたりと鳴き止む。

アブラゼミは翅が不透明の濃茶色である。名前の由来は油の煮えたぎる音に似ているからだという。午後によく鳴く。信州のリンゴ園にはアブラゼミの大群がいて、幼虫がリンゴの木(根)に大被害を与えるので、園芸試験場でこの幼虫を唐揚げにした缶詰を売り出したが大失敗だったとか。

ヒグラシ(写真)は山中に多く、薄暗いところを好む。山中では間断なく鳴いているが、開けたところでは、朝夕や曇天のときに鳴く。名前の由来は「日を暮れさせる」からというのが通説のようである。鳴き声は「カナカナ」と聞こえるというのでカナカナゼミという別名もあるが、私には「ケ・ケ・ケ・ケ」と鳴いているように聞こえる。

ミンミンゼミは、ならやまではときどき鳴き声が聞こえるセミで、鳴き声は名前のとおりである。

ツクツクボウシは、関西のお盆に近くなってから鳴き出す。このセミも鳴き声は名前のとおりで、この声が聞こえ出すと夏の終わりをを感じる。

チッチゼミは8月から出ているようであるが、か細い「チッチッチ」という鳴き声は他のセミの声にかき消されてほとんど気づかない。ツクツクボウシの声が聞こえなくなると、その存在に気づく。大変小さく本土産の最小種である。私は木に止まっている姿を見たことはないが、カシナガトラップにかかったのがその棲息が確認できた。



「悲喜こもごも」

パトロール班発足から1年半、感心することしきりである。

3月頃、5・3ならやまイベントに向けて話し合いを続けていた時のこと、「ならやまらしい活動を採り入れたい」との発言があった。全く同感だった。原案を修正し、「年輪を数える」や「大極殿を眺める」などのメンバーの案を採り入れていった。

4月メンバーを失った。皆彼を頼りにしていただけにショックだった。いっぱい一緒に活動し、しゃべったので楽しかったし、その分寂しい。

5月イベント直前、メンバー同士でメールが飛び交った。「○番と○番の間は表示が少なく、迷いそうなので、印が必要です」「そこは私がしますので○さんは○番の所をお願いします」「了解です」

こんな会話が1年半前に出来ただろうか?道が覚えられへんと言っていたのに 感無量

6月、彼の残してくれた看板がまだ未完成で積んであって、「ちゃんとしような」と申し合わせて少しずつ設置している。そして思い出している。

新メンバーを迎えた。彼女と一緒にパトロールした。終わってから彼女は「感動でした」と言った。私はピンとこなかった。「何が?」と聞いた。「何もかもです。植物を観察したことと観察路の整備をした様子がわかったこと」そうなんや、いつも普通にパトロールしてるだけに、何だかうれしい。

7月、メンバーがならやま自然の森に集まって、ああだこうだと言っている。コンパスと地図とを見比べている。まもなく改定版の地図が出来る予定。

白い花を咲かせている木に名札を付けた。リョウブという木だ。広辞苑で調べると漢字は「令法」だった。字はわかったけど何でこんな字なのか?律令の令と法律の法なんて。もう一人新メンバーを迎えた。その彼女は言った。「作業があるなら言ってください。しますから」うーん、頼もしい。



カワラダケ

森林体験山もり・てんこ森

奈良県山の日・川の日普及啓発推進事業

2014年7月21日(月・祝)

(於：奈良県立野外活動センター)

(主催：奈良県農林部森林整備課)

●参加スタッフ 男性11名・女性3名

●出店内容

竹を使った自然工作 水鉄砲 100個

ブンブンゴマ 竹製品 100個

紙製品 50個

2年連続大雨にたたられていたが、今年は晴天
工作品はたりかな?

今年は、水鉄砲・ブンブンゴマ(紙製品)のバ
ージョンアップもして準備完了。



始まる前
に全員で作
品の作り方
を再確認。

水鉄砲つくり
の第1号のお子
様です。

バージョンア
ップされた標的
に上手に当てら
れたかな?



10時30分
頃になると、
一度に大勢の
対応をするこ
とになりました。

ブンブンゴ
マ・水鉄砲も
大盛況で食事

もとれないほどの状態が続きました。



● 手間暇かけて用意した水鉄砲も1時過ぎには
底をつき、予定の100個をオーバーして今年
は116個となり、子供たちには相変わらず人
気があることを実感しました。

● ずぶ濡れになって遊ぶ子供の姿を、横で着替
えを持ったお母さんが笑いながら見ている姿は
イベントに参加して良かったと感じました。

● ブンブンゴマの100個も1時過ぎになくな
り紙製品を残すのみとなりました。

子供たちが
マーカーで
丁寧に色づ
けている
姿を見てい
ると、時間
のたつのも
忘れそう。

上手に回せるかな?



最後は、スタッフ全員の記念写真です。

お弁当を十分に食べられなかった方もおられまし
た。お家に帰ってゆっくりとお召し上がり下さい。

皆様暑い中御協力ありがとうございました。

(平田範光)

春の感謝祭

じゃがいも祭り



富井 忠雄

6月26日(木) 参加メンバー66名でした。
感謝祭は12時から13時頃ベースキャンプにて行われた。曇り空の中、午前中エコファームと里山グループの協力を得てじゃがいも掘り。



また女性達によりカレーライスと野菜サラダの準備を行う。



ご飯は、白米3升・黒米入り3升を炊き、カレーの具沢山(じゃがいも、玉ねぎ、人参、ズッキーニ、茄子、大蒜などならやま産使用)と肉とルーを入れて出来上がりました。

ご飯の出来上がりですが、発電機の調子が悪く時間がかかり、12時より皆様に食べていただくことになってしまいました。

新鮮な野菜たっぷりのカレーライス、野菜サラダ。各女性人が持ち出してくれた突き出し等で皆さん満足そうでした。

ただカレーのルーとご飯が少し残りました。

量の調整は、むつかしいですね？

スタッフの皆様ご苦勞様でした。



7月・月例研修会報告

『矢田丘陵緑陰健康ウォーク』

梅雨明けの7月22日9時過ぎに、平群駅に18名が集まった。平群駅から少し歩き住宅地を抜けると松尾寺まで木陰の道。登りの緑陰で休憩。小川の水に手をかざす。



松尾寺の境内に着くとカサブランカの花が咲き乱れていた。白・赤・黄・ピンク・紫の5色で、ユリの香りがしてとても素敵だった。ここで記念写真を撮る。



少し登り道を行くと国見展望台があり、大和青垣国定公園の山並みが一望できた。付近で昼食。

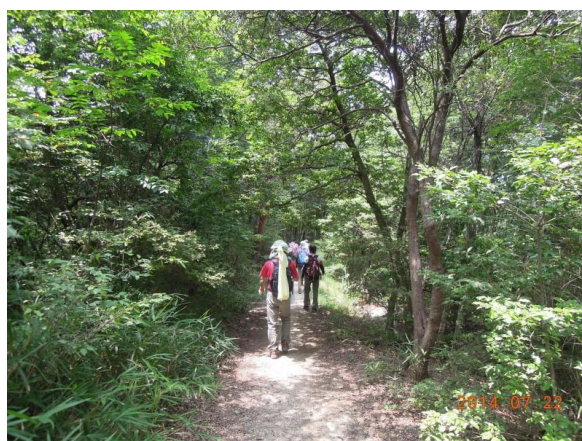
風が爽やかで気分良く休むことができた。



尾根伝いに行き、露ナシ池の下の弘法の井戸でおいしい水をいただく。



雑木林、杉林の緑陰を行く。



最後は帝塚山大学の横で解散しましたが、夏の暑い中の14kmはきつかったかもしれませんが、緑陰で初めてのコースを歩けてよかったという感想もいただきました。(羽尻 嵩)

歴史特別企画

高野山の歴史散歩

7月14～15日の一泊研修に21名が参加、都市部との気温差5度の宿坊での実施でした。

私の故郷は、仏教王国(?)の滋賀県湖北にあり親鸞聖人以降の浄土真宗各派が、しっかりと各家庭に根を張っているところです。その宗祖にあたる法然上人は叡山延暦寺の学徒 一方の空海が開いた真言密教の道場・高野を訪れる事に大きな楽しみがありました。金剛峯寺や壇上伽藍、各塔頭、奥の院、そして御廟 下調べも何もなく見て来よう、なにか感じる事があるのかもという気ままな感覚で参加したものです。

講師「柴谷宗俣」様は、四国御遍路の大先達であり、無量光院に籍を置かれ更に研究を進めておられる方でその解説による環境は、恵まれた2日間でした。

これまでも様々な「曼荼羅」を拝見してきましたが理解できていません。思想を図式化したものと言われても何か今ひとつよくわからないのが実態でした。弘法大師空海が説かれた悟りの人 大日如来(菩薩の中心となる存在)と自分自身の中にある心との一体化をめざすもの。人にも草木にも命があり其々が宇宙の構成員であること、等などお話しを伺ったり、解説書を見たりしますと少し理解ができたような感じになりました。

現在、日本人の宗教心というものは、明治の初め 廃仏毀釈運動が展開され 神道を無理やり天皇制と結び付けて以来 神道と仏教の間には大きな溝ができてしまい、更に戦後の教育が宗教を排除した事等もあり、「一木一草の中に神仏を見る」という日本人の心性を培った信仰心が失われた(梅原猛)事が現状でありましょう。遠い昔からの日本人の宗教心は 八百万の神を受け入れる多神教であると今回の参詣で確信したものでした。仏教の原理は、平等、自由な知恵、慈悲であるそうです。高野山の地に仏教聖地を作ろうとした時に「丹生明神・狩場明神」

をお祀りしたとある事もうなずけますし、奥の院参廊脇に設けられた、数多の墓石への広い度量も納得できるものと思いました。「鳥居」が、随所にある事も理解できました。鳥居の源流が古事記の神話に示唆するように「人界と神域を結ぶ回路」であり、神域の神とは、神も仏も含まれると考えると納得したものでした。

真言密教が認知された818年ころは、京都東寺が、布教と信仰の場であり、都での根拠地でした。もう一つの根拠地、森の高野山は空海が思索、悟り、大日如来との孤独な対話を行ったところであったようです。大師入滅後の「高野山の歴史」を見ますと、頻繁に火災にあい堂塔伽藍が何度も焼失してしまったり、金剛峯寺と東寺の争いが生じたりと、聖地が維持できなくなるような時期もあったと聞きました。長い歴史の中の栄枯盛衰を想う時、それでも連綿と法灯が引き継がれ開創1200年を明年迎える事が、なんと大変な事であろうかと実感します。

高野山は特別な聖地として多くの先人・貴人が参詣し心のよりどころとして今日に至っています。仏教原理の積年の積み重ねが、源になっているのであらうと思います。奥の院の静寂 左右を埋める石碑参道を、ゆったりと歩み 弘法大師ご廟に再度お参りしたいと思ったものです。森=木を愛した空海には、金堂や経堂が似合うと愛着を感じました。

(阿部 和生)

参考資料：梅原猛著「日本の仏教を行く」



金堂

自然教室チームだより ①

月ヶ瀬小学校 校庭の自然観察会
実施報告

6月21日(土)心配していた雨にも降られず
楽しい観察会を実施することができました。

全校児童60名強という小さな学校ですがその中
で24名の子どもたちが参加してくれました。

校庭の不思議発見をテーマに4つの植物を観察
しました。まずはマツボックリ探しです。今年と
去年、そして一昨年以前のマツボックリを同じ一
本のマツの木で探してもらいました。その後は松
葉のお相撲

です。
定番の匂
いではゲッ
ケイジュと
トマトとド
クダミの匂



いの比較です。トマトの葉っぱの匂いが良いとい
う子どもが多かったようです。

校庭に少し生えていたブタナを取り上げ、タン
ポポと比較してもらいました。その後はタンポポ
笛に挑戦です。すぐに鳴らせた子供がいる一方、
なかなか鳴らせずにしょんぼりしている子供もい
ました。笛はなかなか難しいです。

いろいろな葉っぱでは校庭に生えているいくつ
かの葉っぱを並べて、違いをいろいろ発見しても
もらいました。イチョウの葉っぱの写し絵もしまし
た。きれいに葉脈を写し出していた子が何人かい
ました。

最後はフタバガキをまねしたヘリコプターを作
り、空に向けて飛ばす工作です。みんな一生懸命
に作って飛ばしていました。1、2年生には輪ゴ
ムを使って発射させることが難しく反省事項でし
た。

付添いの大人も含めて楽しい観察会ができたと思
います。(倉田 晃)

佐保台小学校 校庭の自然観察会
実施報告

6月25日(水)約40名の子どもたちを対象
に校庭の自然観察会(植物)を実施しました。今
回で6回目になります。今年のテーマは「自然の
不思議を学ぼう!」です。

子ども達が大体一巡する4年間は取り上げるポ
イントがダブらないようにしようとこれまでやっ
てきました。

今回は4年前に取り上げたイロハモミジとミ
ツバアケビは使いましたが、残りは新しい対象を
取り上げました。飾り花の目立つガクアジサイ、
校庭一面に生えていたブタナ、葉っぱのいろいろ
です。

ガクアジサイでは実際に実を作る花と飾り花の
違い、そしてセイヨウアジサイの由来を取り上げ
ました。ブタナは下見の時と打って変わってわず
かしが残っておらず、大変でした。葉っぱのいろ
いろはあらかじめスケッチした図をもとにその葉
っぱを探して歩きました。

またいろいろな自然遊びを取り入れました。モ
ミジのプロペラ飛ばし、タンポポの笛、クズの葉
のポンです。

子どもたちはそれぞれのポイントで自然の不思議
に接し、また、自然遊びを楽しんでくれたと思
います。

工作は
カボチャ
の種など
を使った
「ヒマワ
リやトン
ボの飾



り」作りです。入念に準備した効果もあって、子
どもたちはそれぞれにたつぷりと工夫を凝らした
作品を作りあげました。

参加スタッフは9名でそれぞれ子どもたちとの
触れ合いを楽しみました。(倉田 晃)

自然教室チームだより ②

けいはんな記念公園「水景園」の自然観察
と国立国会図書館の施設見学

7月2日(水)参加者11名。吉村さんから公園の説明を聞いたあと観察会を開始しました。

特にテーマの設定も解説者もなしで、見つけた植物について、お互いの知識を出しあって、話し合いながら進める形をとりました。

観察開始後まもなく見つけたクララ、「根を噛むとクラクラするほど苦いのでこの名がつけました。」「それ、ほんと?」「ほんとですよ。」と和やかに賑やかに知識の伝え合いをしながらたくさんの植物を観察出来ました。

見慣れない花を見つけ、「これ何ですか。」「???」ということで、ついにその場で同定することができず、「判ったら



教えて下さい。」となり、後日「アクシバ」と分かりました。とても変わった花でした。

この日はちょうど半夏生の日、花の下の葉っぱを白く変えて虫を呼ぶハンゲショウがちょうど見頃を迎えて

いました。花の少ない時期ですが、リョウブ、オカトラノオ、クチナ



シなどの白い花、マユミ、コマユミ、ムラサキシキブにゴンスイ、ナツハゼ、ウスノキなどの実が見られ、「秋に来てみたいね。」と話しながら昼食場の東屋に到着し、午前中の観察会を終えました。

午後は、国会図書館の施設見学をしました。地上4階、地下4階の施設ですが、地下の面積が広く、その書庫の広さはサッカー場の3個分も有ると言われ、驚きました。地上の芝生は地下の書庫の屋根であり、断熱効果と光の取り入れを考慮された奇抜な設計となっていました。(平岡久美)

帯解小学校 校庭の自然観察会
実施報告

7月9日午後から急に雨模様になり予定していた校庭での自然観察会をやむなく体育館での実施に切り替えました。



ただ、あらかじめ雨を想定して準備を進めていたおかげで混乱もなく充実した観察会をすることができました。

約40名の子どもたち、10人近くのサポーターの皆さん、私たち5名のスタッフみんな揃って楽しいひと時を過ごしました。

取り上げたのはガクアジサイとセイヨウアジサイのちがい、いろいろな木の実、強い木キョウチクトウ、サクラの不思議、マツボックリのいろいろです。それぞれにいろいろな自然遊びをからませながら展開しましたが、すごい!知らなかった!もっとやりたい!といった感想が聞かれました。

自然工作はヒマワリとトンボの飾りのうちどちらかを選んでもらいました。それぞれ工夫を凝らして素晴らしい作品を仕上げ、うれしそうにもって帰りました。

雨の中、体育館での実施は久しぶりでしたがよい体験となりました。そして準備の大切さを実感しました。(倉田 晃)

(予告) 9月の自然観察会
矢田丘陵の秋の植物観察

御宮知伸彦さんを講師に迎えて、下記のとおり実施します。

自然観察に興味のある方はどなたでもご参加ください。(詳細は9月号です。)

- 1.日時: 9月16日(火) 9時~3時の予定
- 2.行き先: 大和民俗公園の周辺
- 3.集合場所: 大和郡山市少年自然の家の前

やさしい病害虫講座 4 天敵の代表 テントウムシ

木村 裕

最近、「飛べないテントウムシ」を利用して、農作物のアブラムシを防除しようとする話が新聞等マスコミで話題となっています。うまく利用すれば無農薬も可能ではないかとの期待もあります。

このように有益な昆虫（天敵）の利用について考えてみましょう。

天敵には昆虫、クモなどの小動物、微生物（細菌やウイルス）などがあります。

昆虫・小動物には、害虫を捕らえて頭からかぶりつく、体液を吸い取る、巣に持ち帰り子供の餌にするなどの捕食性昆虫と、害虫の体内に無断で住み込み、内部から食い荒らす寄生性昆虫があります。

微生物には、害虫の体内に入り込み、虫そのものを病気にし、最後には死亡させる細菌やウイルスがあります。昆虫の社会には医者も薬も病院もありませんので、病気は命とりになります。

天敵の代表選手のテントウムシの場合、成虫も幼虫もアブラムシのみを食べ、それ以外の生き物には見向きもしませんので、非常に有力な天敵です。テントウムシ一家が活動を始めるとあっという間にアブラムシの集団は食い尽くされて全滅します。それゆえテントウムシの縄張りではアブラムシが増えることは不可能です。

それゆえアブラムシがまず増えるのは、美味しい食べ物（野菜や花）があり、自分達の生活を邪魔する天敵がない所です。寄り集まって我が世の春を謳歌しているアブラムシ一家をテントウムシが見つけると、「しめた！」とばかり駆けつけ、近くの葉の裏に数十個の黄色の卵をかためて産みつけます。ナスにつくテントウムシダマシの卵とそっくりです。だからナスに産み付けられた卵ではどちらの種類の卵か区別が付きません。

通常はまずアブラムシが増殖し、ついでテントウムシが増殖するので、時間的なズレがあります。一般的にテントウムシが増殖するときには、アブラムシはすでに増殖のピーク（吸汁被害も大きい時期）に達しています。火事になって家全体が火に包まれ

た頃に消防車がやってきたようなもので、消火、延焼防止には役に立ちますが、その家は焼け落ちてしまいます。それゆえテントウムシのみに消火を頼るのは厳しいかもしれません。もちろん、早めにアブラムシ集団を見つけて駆けつけてくれた時には非常に有効に働きます。アブラムシの発生に気づいたら、近くの草むらからテントウムシを集めて畑に放し、初期消火をやってもらうのも一つの防除法です。

他所からテントウムシを集めてきて放すのはよいアイデアですが、餌が気に入らないとさっさと逃げ去り、期待通りの結果が得られないことも少なくありません。そこで他所へ移動しないテントウムシとして、「飛べないテントウムシ」が登場しました。これならそこに住みついて繁殖が期待されます。

最近、このテントウムシが生物農薬として販売され始めました。

テントウムシの成虫は皆さん、よく知っておられますが、幼虫はわかりますか？ 害虫と思って取り除かないよう注意してください。



主な捕食性昆虫・小動物、寄生性昆虫

捕食性昆虫・小動物

テントウムシ類、アシナガバチ類、ベッコウバチ等の狩人蜂、ヒラタアブ類、サシガメ類、

クサカゲロウ類、カブリダニ類、クモ類、ムカデ類

寄生性昆虫

寄生蜂（コマユバチ類、ヒメバチ類、タマゴバチ類、トビコバチ類）、

寄生蠅（ヤドリバエ類）



隠れ古社寺 ひとり旅 ⑬

歴史文化クラブ
川井秀夫

福田寺行者堂・吉祥草寺

歴史を追っかけていると不思議な人物に出会う。役 小角もその一人。現世代の方は余り興味関心をお持ちで無いかも知れないが、私もどんな事蹟を残した人物なのか、修験道にも少し理解を深めたいと由緒ある寺を訪ねる事にした。

福田寺行者堂

役 小角の誕生地と聞き、7月7日に予定を組んだ矢先、知人から吉野蔵王堂の蛙跳びの蓮華会に因む「蓮取り」行事が当日あると聞き、こんな偶然があるのかと吃驚、無料バスが大和高田から出ると言うので雨の予報も何のその現地向う。

この地は大和高田市の南端、奥田と言う。小角の母「刀良売」の実家があり、ある日近くの社に行くと、池の中の蓮の葉に金色の蛙を見かけ戯れに投げたカヤが蛙の目に当り、刻が経って出てきた蛙は一つ目蛙だったと言う。その後、母は気に病み程なく亡くなったと民話は語る。今、この池を「捨篠池」、社を「捨篠神社」と呼ばれている。

吉野蔵王堂の蓮華会蛙跳び行事には、この蓮池から採取されたものが供えられ山上ヶ岳まで運ばれ、小角母子を顕彰する修験道の大祭となっている。

蓮取り行事は打ち上げ花火を合図に法螺貝の音が響き、蓮池の小舟



に吉野から来た修験行者が衣裳を整え百八本の

蓮を剪る。荘厳華麗な被写体に二百人余りの観衆のシャッター音が聞こえるほど。行者は小角生誕の地福田寺、刀良売の供養塔の墓地を経て、捨篠神社で護摩焚きの神事を終え吉野へ引き上げる。

祭りの合間に福田寺行者堂を拝観。開かれた本堂には瘦身の小角が二鬼を従え鎮座する。

300米離れた田圃の中に「為刀良売御前供養」の石塔が建つ。

1300年の時を超え、郷土の偉人として今も脈々と残る伝承にある種の畏敬の念を覚える。



吉祥草寺

奥田から南へ3キロの道に行く。田園地帯が読み、右手に金剛・葛城の山容を眺め御所市茅原の地域に入る。

寺名は吉祥草で庵を結んだ事からと言う。門前に立つと誰ひとり人影が無い。仏教寺院とは違った雰囲気を感じる。本堂には五大明王を祀り、奥の行者堂には若き日の小角自作の像を祀る。京 醍醐寺の理源大師 聖宝が再興するが、南北朝の頃高師直の焼き討ちに遭う。

江戸期には隆盛を極めるが、今はお正月の茅原のトンド祭りに人が集まる。また陀羅尼助に代表される和漢薬の創始者としても名を残している。

次号に役小角と修験道について書いてみたい。殺風景な町並みを抜け、JR玉手駅から王寺を経て帰路を急ぐ。蒸し暑さで汗びっしょり。ああ疲れたよ。



油彩画 (辻本愛子) 「チェコ、モラビア地方の夕焼け」

墨彩画 (羽尻 嵩) 「夢色に染まる街」 手芸 (守口京子) 「ならやまイ草で編んだ敷物」

陶芸 (小島武雄) 「伸び猫」 (赤土、黒化粧土、釉薬 (青磁))
「得意顔」 (白土、黒化粧土けずり、釉薬 (織部))



夢色に染まる街



▲ ならやまイ草で編んだ敷物



▲ 伸び猫



▲ チェコ、モラビア地方の夕焼け



▲ 得意顔

蒲の花神話の国へいざなえり

栗本一代

初投句。里山の蒲に目がゆく。大国主命の出雲神話が鮮やかに広がる。見立て俳句の真骨頂。お見事。

誘ひの半夏草の白眩し

栗本一代

里山花園の半夏草が匂。誘引の白色に虫が寄り付く。人までも。

お大師の曼陀羅のこゑ朱夏の偈げ

羽尻 嵩

偈は平たく言えば経文。高野大塔の立体曼陀羅は圧巻。如来・菩薩・明王たちの声なき声に心は無となる。

梅の実や稚の産毛に似てるかなやや

西谷範子

落梅を拾う。残り香と共に赤子の産毛の感触。女性ならではの感性。落ちてなほ余情あり。

あぢさゐの瑠璃光のいろ高野かな

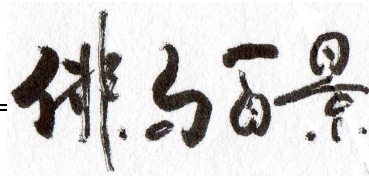
古川祐司

歴・文、初の一泊研修。高野山は瑠璃光浄土。俗世を離れたひとときを楽しむ。

千年の過客の墓碑や苔の花

古川祐司

空海の御廟への道は幾万のつわものが眠る。苔生す墓石に千年の時空を感じる。永久の聖地。



監修 川井秀夫



羅漢像見つめる先に夏花かなげばな

鈴木末一

四国旅行の途次。西日光耕三寺を訪う。安居（僧の修行期間を言う）の時期として供花の彩りが華やか。羅漢の表情も印象的。

みちのくのマリモふわりと色涼し

八木順一

東北の旅、ここにもマリモ。淡水藻の姿に涼味。北海道産とは別種の様だが一度見てみたい。

せせらぎの音の触れゆく水芭蕉

八木順一

尾瀬の風物詩。清らかな水のシンフォニー。作者は暫しうつとり。叙情的な佳句。

驟雨去る金堂の反り耀かがやけり

阿部和生

高野山に篠つく様な雨。晴れて夕日がお堂を引き立てる。壇上伽藍は全て曼陀羅世界。正に仏光のかがやき。

億万の仏鎮もる青高野

川井秀夫

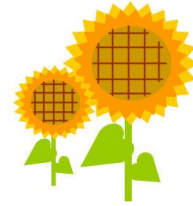
宗派を越えた天空の聖地。大杉に囲まれた幽玄の世界。歩いても歩いてもここは仏国土。合掌。

人の世の今日は高野の夏精進げ

川井秀夫

凡人は悟りの境地には程遠い。せめて今宵は精進料理。「夏精進」は修行の仏教言葉。自室での酒盛りは気が引ける。

癒しの散歩道



夏は呼んでいる

谷川 萬太郎

①生まれ変わる季節の鼓動が どこからか聞こえて来る
 昨日の涙雨はいつしか夢想花に その身を預けて眠る
 草花に残されし玉露は流れて 白い光の星屑になる
 鉛色の空よ出会いは別れ 懐かしき故郷の景色は夏模様

②梅雨の侘しき消えた朝に 陽の差す窓辺に向日葵の花
 川面を滑る涼しき夏の詩 山裾に広がる草原に燕飛び交い
 頬に冷たい潮風に逢いたくて 海辺の砂浜に足を運べば
 沖に浮かぶ船影追いかけし 群れ飛び急ぐゆりかもめ眩しく

ならやま茶論



「実りまで」

竹本雅昭

刈払機：“キューン”“ガー”旦那又コンクリに当たりましたぜ、何度言うたら分りまんねん全。

翁：すまんすまん、そない言われたかてここはようけ埋ってゝえらいやりにくいんや。

刈払機：おまけにせつかく植えた苗を2本も切つてしもて、かわいそうに。

翁：そないに責めんといてくれよ、ワシだつて気を付けて少しでも多く邪魔な草を刈ろうと思つてのことなんやから、その上あんたもよう切れるしな。

刈払機：旦那も年令のカゲがながく斜めに落ちてきてるさかい、余り張り切らんとゆつくりしたらどうです。

翁：ようゴチャゴチャ言うやっちゃな。この性分は中々直らんもんでな、今日一日辛抱して付き合うてんか。

刈払機：旦那かて未熟な腕を棚上げしといて、随分くにかくにやと言ひ訳みたいに。

翁：そりや自分も植えた柑橘の苗を切つてしもてシュン太郎や。でもちょっとスタートが遅れるだけですぐ丈夫に伸びてくれるわ、なあ苗木さん。

苗木：ん・・・まあ、ちょっと皆より遅れるのがくやしいけど気を取り直して……。やりにくい斜面でしたやろけど、ここは日当り抜群やよつてたくさん実る様頑張ります。

ならやまプロジェクト

活動予定日

8月	7 (木)	14 (木)	休み
	21 (木)	28 (木)	
9月	4 (木)	11 (木)	18 (木)
	25 (木)		

◆ 場 所：奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林
[ならやま会館前道路（ならやま大通り）の南側に広がる里山林地]

◆ 集 合：現地ベースキャンプ地・午前9時

◆ 終了予定：午後3時



8月7日

<里山 Gr>

「ならやま里山林」：大径木伐採・薪材料玉切り

<エコファーム Gr>

サツマイモの除草・蔓返し、畑の除草

大根畑の畝作りなどの準備

第5 地区サツマイモ収穫

<景観 Gr>

彩の森草刈り

山野草園草引き、シェードガーデン整備

池の整備

8月21日

<里山 Gr>

「ならやま里山林」：大径木伐採・薪材料玉切り

<エコファーム Gr>

桜島大根のたねまき、畑の除草

大根畑畝作り

蕎麦畑準備と播種（第5地区も）（蕎麦クラブ）

ナス更新剪定（ナスクラブ）

慈姑畑除草

<景観 Gr>

イベント前の一斉清掃、BC 付近の清掃

ビオトープ園草引き、夏花草引き、水やり

水生生物調査、池の整備

アクセス

① J R 平城山駅下車：東口から南へ徒歩 10 分

② 近鉄奈良駅：バス 13 番乗り場

8：27 発、高の原行き（平日）

③ 近鉄高の原駅：バス 1 番乗り場

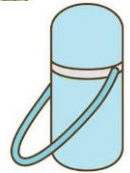
8：38 発 J R 奈良駅行き（平日）

②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車
徒歩 7 分

◆ 携行品など：弁当、飲み物、
軍手（作業用具は現地で用意）

◆ 環境保護のため、お椀、箸、
コップなどは各自ご持参下さい。

◆ 連絡先：木村 裕 0742-46-4956



8月28日

<里山 Gr>

「ならやま里山林」：大径木伐採・薪材料玉切り

<エコファーム Gr>

玉ねぎ種まき床の準備、大根畑畝作り

蕎麦畑準備と播種（第5地区も）（蕎麦クラブ）

<景観 Gr>

第5地区①石・倒木等の除去

②草刈り

皇帝ダリア園草引き支柱

麝香揚羽蛹のための整備

池の整備、池周辺の草刈り





行 事 案 内

9月・月例研修会予告

『夏だ！休みだ！里山へ行こう②』

〔東京海上日動協賛、奈良県・奈良市教育委員会後援〕

日時： 8月23日(土) 10時～15時

〔雨天の場合は翌日24日(日)に順延〕

夏休みも終盤を迎える頃、GGプロジェクトの2回目を開催いたします。

午前中は①オリエンテーション ②里山散策と山遊び、午後は③竹ぽっくり作り等の自然工作 ④まとめ・終了式 の計画です。お昼は会員心尽くしのジュースを賞味しながらの昼食とバウムクーヘン作りとなっています。募集人数は50名となっていますが、年々人気が高まり、1回目は募集開始初日で定員がオーバーするほどでした。イベント内容の充実や参加者の安全確保のため、多くの会員さんにご協力いただければ幸いです。

まだ、イベント開催まで日がありますが、用意万端整えて当日を迎えたいと思っていますので、皆様方のご協力よろしくお願いいたします。

歴・文9月度例会(予告) 御所の歴史探訪

残暑のピークを過ぎた頃を見据え、県下でも有数の歴史・文化都市 御所市の核心部を訪ねます。古代から現代まで多くの人物を輩出した事もあり、その事蹟を巡りたいと思います。

- 1 日時：9月24日(水)
- 2 集合：中小企業会館前(近鉄奈良駅東)
午前8時30分(貸切バス利用)
- 3 行程：神武天皇社・水平社・吉祥草寺
白鳥陵・条ウル神古墳・国見神社
御所まち散策。
- 4 参加費：3000円程度
- 5 世話人：川井・古川・森
- 6 定員の制約がありますので、申込み方法等の詳細は9月号でご案内します。

(歴文事務局 古川祐司)

高野山町石道(ちよういしみち)ハイキング

高野山町石道は、国の史跡として指定されていて、慈尊院(和歌山県伊都郡九度山町)から高野山(和歌山県伊都郡高野町)へ通じる高野山の表参道です。弘法大師が高野山を開山して以来の信仰の道とされてきました。また、ユネスコの世界遺産『紀伊山地の霊場と参詣道』でもあります。今回は、コースの前半を歩くことになります。途中柿畑、杉林、紀の川、丹生都比売神社、二つ鳥居と見るところは多くあり、変化に富んでいます。クマ出没の看板も気になります。



- 1, 日時：9月30日(火)
- 2, 集合：8時30分

南海電車なんば駅3F北改札口特急券売場前

- ※ 一応 少雨決行の予定です。
- ※ 詳細は9月号でご案内します。
- ※ 担当：境 寛、森 英雄

???奈良学クイズ???

【問】次の写真の発掘品の名称と所蔵されている寺院名をお答えください。



- ※ 応募方法:メール or ファックス
- ※ 応募締切:8月3日(日)

平成26年・7月度幹事会報告

- ◆日時：平成26年7月1日(火)16～20:30
- ◆場 所：奈良市中部公民館
- ◆出席者：幹事19名 委員1名 顧問2名
- ※ ならやま委員会と幹事会を統合開催
- ◆案 件：
 - ①会員動向、会計報告（会員は152名）
 - ②月例研修会、自然教室、ならやま等の活動報告
 - ③グリーンギフトプロジェクトの進捗状況
 - ④7/21 奈良県「山もり・てんこ森」について
 - ⑤8/4 月例研修会・夏季自然観察会について
 - ⑥9/18 奈良県景観サポーターの受入について
 - ⑦10/19 生駒市・里山林の間伐、除伐体験
 - ⑧林野庁交付金制度の進捗状況について
 - ⑨月例研修会の下見交通費の補足規定について
 - ⑩ネイチャーなら8月号の編集について
 - ⑪7～9月の行事予定の確認、その他

ペン画に寄せて 境 寛

薬師寺東塔は、薬師寺で唯一創建当時より現存している建物で、1300年の悠久の時間を重ねてきた歴史をその姿から感じられます。塔の上層部にある九輪の下に、尊い塔が火災にあわぬようにとの願いをこめて、水煙が祀られています。水煙に透かし彫りされた24人の飛天は笛を奏で、花を蒔き、衣を翻し大空に御仏を讃えています。この東塔は、平成21年より解体修理に着手されており、現在は覆屋に覆われておりその姿を拝むことは出来ません。この春にこの水煙が解体され降ろされ、公開されました。

申し合わせ
事項

ならやまでのプロジェクト活動やイベントは、前日午後7時前のNHKTV天気予報で奈良県北部の、降水確率が午前60%以上の場合は、中止になります。

- ※ 通常活動日【木曜日】が、雨天等により中止になった場合、翌日の【金曜日】を臨時活動日とします。
- ※ 種々ご都合もあるかと推測されますが、「ならやまプロジェクト」の推進のためにもよろしくお願いします。



梅雨明けするや否や、
猛暑日が続き、各地に高温
注意情報が連日発令される
ようになりました。また、今年も
各地でゲリラ豪雨による被害が発生しています。
1時間雨量が100mmを越えるなど、観測史上初
という文字が紙上に掲載されること暫しです。

また、大都市における集中豪雨も多く発生しています。ある気象予報士の方が、このような現象は、自然界における大気の循環形態を人工的に変えてしまった結果だとの説を言われています。海岸線沿いの高層ビル建設による朝風夕風の遮断、都市のヒートアイランドなどによる上昇気流の発生等が、大きな要因ではないかとのことです。

「子孫から借りている自然だから」を、地球規模で考えることが求められています。大自然から人類への「警鐘」を無視し続けていると、オーバーな表現かも知れませんが、人類の破滅に繋がりがねません。緑地帯の復活が急務ではないでしょうか



ならやまプロジェクト活動に、毎週約60名近くの会員さんが参加いただいています。「緑の保全」のために、微々たる力であっても「継続は力なり」です。共に頑張っていきたいものです。

(里山人)

会報誌[ネイチャーなら]・第151号

発行：奈良・人と自然の会

会長 藤 田 秀 憲

<http://www.naranature.com>

◇ 9月号の印刷・発送予定について

日時：平成26年8月27日(水)am 9:00～

於：奈良市ボランティアセンター

◇ 編集子一ム・代表 鈴木 末 一